

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、各単元のねらいに沿って、身につけるべき内容の共通理解をもって基礎基本の定着を図る。 重点研究テーマを「生き生きと主体的に学び続ける子どもを目指して」と設定し、図画工作を中心に学習指導を工夫して、子どもが主体的に取り組める活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で教材研究を行い、単元のねらいや学習指導の共通理解をもって指導にあたった。 題材の選定や学習展開の工夫、指導の工夫などを研究を行ったことで、子どもたちが生き生きと自己を表現する姿が見られ 	B	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科、各単元のねらいに沿って、身につけるべき内容の共通理解をもって基礎基本の定着を図る。 ②重点研究テーマを「生き生きと主体的に学び続ける子どもを目指して」と設定し、図画工作を中心に学習指導を工夫し、子どもが主体的に取り組める活動を設定する。 			確かな学力			
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動や縦割り活動等、異年齢活動を充実させる。 地域や保護者の協力を得て行われている行事を大切にするとともに、思いやりの心や自己有用感を味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会では、低学年も参加する活動の機会を増やしたり、縦割り活動では、児童が内容を企画する集会を行うようにしたりと、活動の幅を広げることができた。 行事の参加者は多く、体験による効果も実感できるが、さらに児童の主体的な参加を望みたい。 	B	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ①児童会活動や縦割り活動等、異年齢活動をさらに充実させる。 ②地域や保護者の協力を得て行われている行事を大切にするとともに、思いやりの心や自己有用感を味わうことができるようにする。 			豊かな心			
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ委員会企画の運動集会の取り組みや、保護者や地域ボランティアと連携したなわび活動を中心に、子どもの体力向上を目指す。 新体力テストの記録を活用し、自己の基礎的運動能力(走る、跳ぶ、投げる等)を把握し、体育学習や、その他運動活動を通して、自己の体力に対する意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ委員会を中心とした長編大会や、地域ボランティアの方と連携した「いきいきキッズ」を実施し、長編を通して子どもたちの体力向上に向けた取組ができた。 新体力テストでは、自己の記録を、体力向上や意識の向上にどう活用していくかが課題となった。 	B	健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ①日々の体育学習やスポーツ委員会企画の運動集会の取り組み、保護者や地域ボランティアと連携したなわび活動を中心に、子どもの体力向上を目指す。 ②新体力テストの記録を活用し、自己の基礎的運動能力(走る、跳ぶ、投げる等)を把握し、体育学習や、その他運動活動を通して、自己の体力に対する意識の向上を図る。 			健やかな体			
児童・生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> あいさつなどの礼儀や、茅ヶ崎東のルールを守る規範意識を身につけ、節度ある生活態度で行動ができるようにつとめる。 ニコニコふれあいタイムでの活動を通して、高学年が日常生活の中でリーダーシップを発揮し、よりよい姿を示すことで、規範意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ活動などを通して、意識は高まってきたり、成果も実感できているところだが、まだ十分とは言えない状況である。児童、保護者、教職員ともに今後も継続して取り組むことに必要性を感じている。 ペア学年での縦割り活動が定着し、活動に広がりを見せている。 	B	児童指導	<ul style="list-style-type: none"> ①「学校のきまり」及び「教職員マニュアル」をもとに、細かいスパンで課題や成果・変容を確認し、全職員で共有しながら、指導にあたる。 ②未然防止・早期発見・組織で対応できる児童指導・児童支援を目指して、学年研究会や児童指導委員会の充実を図る。 			c1			
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーター・学校支援ボランティアの方々と連携して、様々な側面から子どもたちの育成を進めていく。 子どもたちが地域に積極的に交流していくよう引き続き努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーターを中心に、学校支援ボランティアの方々に防犯・見守りや学習支援など多くの場面でサポートしていただくことができた。課題としては、提案補助をしていただく際の予定調整が挙げられる。 地域の行事やおやじの会による楽しい催し物が多く、子どもが地域の方々と接する場に自主的に行く機会が多かったのが良かった。 	A	地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ①それぞれの活動の意義やめあてを明確にし、児童がより主体的に活動できるよう学年の実態にそった指導の手立てを工夫していく。②地域の方々とのかわりのある活動について積極的に発信し、子どもたちが地域の方々と共に、地域の自然・文化の中で教育活動を進めていることの理解を得る。また子どもたちの地域への愛着を確かめようとする。 			c2			
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程に地域の材(人、物、場所など)を効果的に取り入れていくようにする。 あらゆる教科の中で地域を生かした体験的な学習を計画していく。 子どもたちが主体的に学習していけるような指導の工夫をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ボランティアや地域コーディネーターとの連携を図ることで、低学年から高学年まであらゆる場面で効果的なサポートが受けられ、成果を挙げている。 地域の材を計画的に活用し、体験的な学習を通して、実感のある学びを展開することができた。 	B	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援委員会を基盤として、支援や配慮を必要とする児童へのニーズに応じた継続的な支援を保護者との連携のもと進める。②個別級児童共通理解研修等を通して、一般学級と個別支援学級の連携の強化を図り、充実した交流学習を進める。③ユニバーサルデザインに関する研修やカウンセラー、療育センター等と連携し適切な支援の方法を探る。 			c3			
いじめ防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 学活、道徳などの時間に専任がT・Tとして学級に入り、直接指導する機会を設けることで、児童理解やその後の指導の充実を図る。 職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。 いじめ、体罰防止の職員研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学活、道徳等に専任がかかわることで、児童理解を深め、いじめの未然防止につながる指導がすることができた。後期は多くの職員がかかわる体制作りができ、組織としての問題の解決に臨むことができた。 職員研修を行い、理解を深めた。 	B	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的にいじめ防止対策委員会情報交換を行う。②児童の実態把握から必要となる「子どもの社会的スキル横断プログラム」を様々な場面で活用していく。③児童一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長リーダーとして、担任・学年・専科・児童支援専任からなるチームによる支援を進める。 			c4			
人材育成・組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ①メンターチームは経験年数が3年以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが中心となって計画・推進し、教職員が互いに関わりながら実践力を高めていく。②夏休み等を活用して人権研修、不祥事防止研修等を行い、教職員の意識を高める。③教職員全員がそれぞれの役割を自覚し、機能できるような組織の構築に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> メンターチーム研修では、ミドルリーダーが中心となりメンバーのニーズに合わせた計画と実践を行うことができた。 長期休み等を利用して研修を行い、教職員全員がそれぞれの立場で意識を高めることができた。 	B	人材育成・組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ①メンターチームは経験年数が3年以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが中心となって計画・推進・発信し、教職員が互いに関わりながら実践力を高めていく。②教職員全員がそれぞれの役割を自覚し、機能できるような組織の構築に努める。③職アンの活用による業務の効率化を図り、教職員の評価と指導、人材育成へつなげる。 			c12			
ブロック内相互評価後の気づき	<ul style="list-style-type: none"> 合同で行った授業研究会では、領域ごとの小中のねらいの違いや育てたい力を確認することができた。継続して取り組んできたことで、教職員全体の意識も高まり、成果を上げていると言える。今年度は、小中学校教訓による相互の授業参観及び研究討議、レクリエーション研修、中学校の合唱訪問等を実施した。自校の取組を見直したり、児童生徒指導に生かしたりするために有効であったと思う。今後、さらに小学校同士の間を深めたり、相互評価を教育活動に生かしていくためにも、お互いの授業や行事の様子などさらに知る工夫が必要だと感じた。 			ブロック内相互評価後の気づき				ブロック内相互評価後の気づき			
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 継続して取り組んできているあいさつ活動がとても良い。大人があいさつをすると、元氣なあいさつが返ってくるようになった。校外では、知らない人にあいさつをするには抵抗があるようだが、根強い大人からの働きかけが必要である。地域の中で、顔見知りの関係を築けるようにしていきたい。 登下校中の歩き方が気になるところがある。道歩道が整備され、車道と完全に切り離されているところで生活している児童が多いので、注意する習慣がない。時には、歩道の狭い道路を歩く経験も必要ではないか。 			学校関係者評価				学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 取組目標によって達成度は異なるが、地域との連携については十分達成されている。しかし、学習指導や人権・生活指導面では、課題が出てきており、来年度に向けて、それらの課題を解決するために、目標達成への取組内容を、校内で共通理解しながら、推進していく必要がある。 経験の浅い教員がますます増えてくる状況を見ると、人材育成の強化が望まれる。教職員の力を向上していくことが、すべての項目の達成状況を上げることにつながると考える。より質の高い教職員集団にしていくために、研修の充実とともに組織の見直しも必要である。 			学校経営中期取組目標振り返り				学校経営中期取組目標振り返り			